

新潟県特別支援学校
職業技能検定(清掃)

審査員

ハンドブック



職業技能検定（清掃）の審査について

1 審査員の基本姿勢

- ミスを探すのではなく、清掃業務に支障が出るかという視点で審査をする。
- 100%できていれば「○」とする。
- 指導場面と審査場面を区別し、審査に集中する。
- 公平・公正に審査するようにする。
- 受検者が落ち着いてできるように、受検者が気になる動作をしないようにする。

2 審査上の注意点

※原則として、検定要項の「清掃技能検定実施上の留意事項及び仕様について」に沿う。

- 評価項目ごとに「△ ×」を記入する。 ※「○」は記入しなくて良い。

「○」 100点満点で100%できている。

業務として満足できるレベル。 → 1度もミスが無いレベル

「△」 100点満点で99%～50%程度できている。

業務として修正すべき点があるレベル → 数値化できるものについては2回まで

「×」 100点満点で50%未満しかできていない。

繰り返しミスがある。 → 数値化できるものについては3回以上

1回だが業務に支障がある大きなミスである。

例) ～を壁（想定）にぶつけない	2回まで△、3回以上は×
はき残しが無い	2ヶ所まで△、3ヶ所以上は× [自在ぼうき]
ふいた所を踏まない	2回まで△、3回以上は× [モップ]
ヘッドを浮かさない	2回まで△、3回以上は× [ダスタークロス]

※数値化できないものについて、共通理解を図らないと2人の採点が10点以上の差が考えられる場合は、打合せの段階で共通理解を図る。

- 評価項目「総合」について ※「○」は記入しなくて良い。

「手順通りに行っている」 ※清掃コート内の手順が審査の対象

「○」 手順に間違いがない → 各種目の作業手順（図解）の順番が正しい

「△」 業務に影響ない程度の手順違い → 順番の間違いが2回まで、又は順番を抜けるのが2回までは△

「×」 業務に影響がある手順違い → 順番の間違いが3回以上、又は順番を抜けるのが3回以上は×

「手際よく行っている」 ※準備から片付けまでが審査の対象

「○」 利用者の立場から見て、見た目がよい手際よさ

→ 静止して考える様子がなく、一連の動作が連続しているのは○

「△」 利用者の立場から見て、業務に影響ないが、ややぎこちない手際よさ

→ 静止する場面が2回、又は動作が不自然に途切れてしまうことが2回までは△

「×」 利用者の立場から見て、業務に影響がある手際の悪さ

→ 静止する場面が3回以上、又は動作が不自然に途切れてしまうことが3回以上は×

- 審査の準備 *** 審査員同士で検定準備の確認を確実に行ってから受検者を入室させる。**

<自在ぼうき>

- ・シュレッダーごみの量…カップ1/3 (30ml~35ml) 程度。

枠から30cmにはまかない。

- ・自在ぼうきの柄は実技の前に緩めて最短にしておく。
- ・文化ちりとりの中のゴミは実技の前に空にしておく。

<ダスタークロス>

- ・シュレッダーごみの量…カップ1/3 (30ml~35ml) 程度。

机の下と枠から30cmにはまかない。

- ・パワーハンドルの柄は実技の前に緩めて最短にしておく。
- ・文化ちりとりの中のゴミは実技の前に空にしておく。
- ・新しいクロスを準備する。

<モップ>

- ・バケツの水は約半分入れて準備する。
- ・パワーハンドルの柄は実技の前に緩めて最短にしておく。

<掃除機>

- ・シュレッダーごみの量…約50ml。机の下と枠から30cmにはまかない。
- ・実技前にコードをきれいに巻き直しておく。

- 時間の計測は、受検者のコール「番号、学校名、氏名、始めます。」の直後に開始し、作業終了のコール「終わりました。」の直後に終了する。
- 受検者の視界に入りすぎない。強い口調、検定中に首をかしげる、凝視する等の行為は避ける。
- 自校の生徒を審査する場面は、公平公正に行う。
- 審査は2人の審査員の合計点で行う。集計は別の係の者が行う。

*** 審査後、審査員同士で必要があれば確認を行う(見落とし、取りこぼしなど)。協議はしない。**

- 技能検定終了後、評価表は返却しない。審査員は評価結果に関する事項を口外しないこと。
- 各会場で使用する机は、写真のタイプのもの
(脚がコの字型のもの)、もしくはこれに近いもの。



3 採点の流れ (合同開催の場合)

※自校開催の場合は、①、③、④については各校の裁量で行う。

②については、集計ミスがないように複数の目での確認を必ず行う。

- ①審査後、控え室担当が評価表を本部2へ持って行きそれぞれの評価表集計担当へ渡す。
- ②評価表集計担当は赤・青を決め、それぞれの色で集計し、点数を評価表に記入する。
評価表を交換し、ペアでダブルチェックをする。
- ③集計後の評価表を箱に入れる。
- ④認定証記入者は、集計後の評価表を受け取り、パソコンに点数を入力し認定証に級を記入する。

【全項目】

評価事項		共通理解
1	始めのコール	・帽子をかぶった状態で定位置に立つ。その後、帽子をとってコールの流れ。帽子をとった状態で定位置に立った場合は△－2 ・コールをして一礼 → 言ってから一礼○、言いながら一礼は△
4	キャップのかぶり方	おでこの真ん中くらいで、まゆにかからない。
6	作業表示板の位置と向き	作業に支障がなく見やすい位置であれば○ 向きはどの向きでも減点しない。 表示板を立てる時は、膝立ちでなくても良い。
	作業表示板の順番	一番先に表示板を立てる○ 最初でない場合は－2、用意しなければ×－10
	「失礼します」等の声	大きさに関係なく内容がはっきり伝われば○、聞き取りにくかったら△ 事前に「場面緘黙」等の申請があったなら、一礼していれば○ 立ち位置はマットの上で行ったときのみ○。それ以外は△。両方△に該当していても△。
	入退室	「失礼します（しました）」を言ってから一礼○、言いながら一礼△ 備考欄に「キャップを取らなくてよい」になっている → キャップを取っても○ ※入退室の際、道具や体が壁（想定）にぶつかった場合は減点。 2回まで△－5、3回以上は×－10
	柄の適切な長さ	柄の先端が肩から耳の間 ※掃除機以外
	機材を戻す順番	項目にないので順番は減点対象にしない。
	緘黙児の点検	指さしでも手に持った道具を前方に出す動作でも、点検していることがはっきりと分かればよい。 ※モップ以外
	大きな音	道具の扱い上、やむを得ない場合（気を付けても出てしまうもの）は対象外。道具の扱いが雑であったり、勢いよくぶついたりしたものは対象とする。
	その他	機材を倒し大きな音がした、破損などの場合は「その他」で減点する。 検定中に「あっ」「失敗した」など検定に必要な言葉が発した場合減点する。1回目…△－5 2回以上…×－10 評価項目以外で、作業に支障があり気になる動作については、状況を記入し減点してください。その際、同じ動作を何回行っても一つの項目につき－5の減点。
	表示板が閉じない 用具の不具合など	受検者は審査員に申し出る。→審査員は計測を一時中断して対応する。

*制限時間を過ぎたら、その時点でできた所から下の項目はすべて×。もう少しで一通りの作業が終えられそうな場合は評価対象ではないが最後までさせる。あまりにも時間がかかりそうな場合はその時点でストップをかけ、終わりとする。

【自在ぼうき】

評価事項		共通理解
7	文化ちりとりを入り口横に置く	・立てておいても、寝かせておいてもよい。ただし、倒れたら「その他」で減点 ・作業表示板の文字を隠すように置いたら△
8	適切な長さ 調節はどこで行うか	・柄の先端が肩から耳の間が○ ・マットの上でなくても○
10	毛先を下に向ける	・マットに付いても、付いていなくても○
11 45	自在ぼうきを壁にぶ つけない	・一礼する時に、毛先や道具が部屋に入っているのは減点しない。
15	背筋を伸ばす	・適正な姿勢がとれない生徒は、事前に申請する。
17	同じ面で掃く	・ほうきの持ち替えの場面で確認し、回数により△×
18	掃く間隔が適切	・途中で間隔が変わらない○
21	正しく	・持ち方、動作が正しい
18 21	掃く間隔 正しく	・ほうきを横に掃き出すときに、真横ではなく、ワイパーのように丸く掃いてしまうのは、18か21で減点。回数により△×
21	正しくていねいに	・自在ぼうきを持って移動する際に、足がほうきにあたってしまうのは、かする程度は減点しないが、ぶつけた時は減点。回数により△×
22	1列になって見た目がよい	・大幅に左右によっていなければよい。
24	毛先を軽くたたく	・毎回たたいてゴミを落としている場合でも○
25	ごみを踏んだり・・・	・目で確認できるごみを踏んだりまたいだりした場合は減点。ごみを回収する際にもごみをまたぐのは減点。
26	毛先を幅木に沿って 進めている	・毛先が幅木から外れてしまうのは減点対象。回数により△×
27	斜めにして	・幅木に対して斜めは○、直角は△、逆の斜めは× →○：正しい方向に斜め △：直角や逆斜めに時々（2回まで）なる（正しい斜めを意識している） ×：常に逆の斜め（3回以上）（正しい斜めの意識がない）
29	幅木に自在ぼうきを ぶつけない	・角を掃くときにほうきの毛先ではなく、本体が当たってしまうのは減点対象。回数により△×
30	一礼して出入り	・静止して礼は○、動きながらは△、礼をしない×
32	1つにまとめる	・1回で行っても、分けて行ってもよい。
33	正しく	・ほうきがぐらぐらしないように固定する。
34	後ろに引きながら	・引きながらゴミを入れることをしなければ× ・ちりとりでゴミを掃き込む→引く→掃き込む、と動作が区切られる○ ・2、3回掃いてから後ろに引く →○
	ごみ回収時の自在ぼうきの 面が違っていた場合は	・17の「同じ面で掃く」で減点する。
	ゴミ回収に手間取っている 様子が見られたときは	・48の「その他」で減点する。

35	半分をちりとりに入れる	・ほうきを回しながらでも、平行移動でも、ちりとりで半分入っていれば○
40	四隅に「よし」と言ってごみがないの確認する	・「よし」と言って点検していればよい。ただし、「よし」と言っているのにごみが残っていた場合は減点。最終的に回収しきれないごみが残っていれば41の評価欄も減点。
41	ごみがない	・2個までは△、3個以上は×
42	手順通りに	・例：⑫を抜かした→⑬、⑭、⑮、⑫の順でやった場合は、1回とする。 ・作業手順⑬は階段のように掃かなくても減点しない。
46	機材を置場に戻す	・自在ぼうきの柄の長さを戻しても、戻さなくても○
48	自在ぼうきの毛先に付いたごみについて	・付いたまま、点検してもよいが、枠内にごみが落ち、そのままにしたら41「～ごみがない」の項目で減点。枠外で落ちたごみは評価対象外。
その他	自在ぼうきの毛先に付いたごみを検定中に手で取った場合	・「手際よく行っている」で減点する。
	掃き方進み方（中央）	・中央に掃き残しがあった場合 →20だけをチェックする。 *ごみをまたいで進むとは考えない（25は「目で確認できるごみ」）。 ・掃き進めていくときに1度で取れないゴミがあったら2度掃いても良いが、 <u>元に戻って行うのは減点</u> 。
	掃き進み方（壁際）	・壁際のL字をする際に、自在ぼうきの毛先が床に着いた際に少し後ろにずれてしまうのは両面を使ったと考えるのか？ →故意ではなく掃いているわけではないので減点にはならない。
	壁（想定）にぶつかる	・掃き進めている時やごみ回収・点検時に道具や体を壁（想定）にぶついたら減点。

【ダスタークロス】

評価事項		共通理解
7	文化ちりとり	・使用時に持ち出しても○
8	自在ぼうき	
11	クロスを留める位置	・留める位置は、真ん中→端、端→真ん中、どちらでも○
11	クロスを留める場所	・最初からマットの上でも○
18	柄の先端は	・壁際の直進で確認し、体の正面は×
17	持ち方	・ずっと持ち方がだめな場合は×。途中で直したら△
18		
19		
21	入口左から	・半円で描いても、まっすぐ拭いても、どちらでも○
22	ヘッドはやや中央に	・大体30度くらいを目処に
23	幅木に沿ってまっすぐ押す	・クロスが端がすーっとかすっていくこと。離れてしまったらその回数によって△× ・クロスは幅木に当たる（かする）のが○ヘッドが当たるのは「24」の減点対象
24	ヘッドをぶつけない	・1回でも強くぶついたら△、何回かで× →2回まで△、3回以上×
27	机の下に入れて	・ヘッドを机の下に入れていれば○
29	机の下にごみを残さない	・項目51で、ごみをすべてちりとり回収していても、机の下にごみが残っていた場合は、チェックがつく。
31	斜めにならない	・自動車のワイパーのようにならない。たまに斜めは△、常に斜めは×
32	重ねぶき	・重ねすぎ（2分の1）は△、2分の1以上は×
33	ふき残しがない	・壁際と中央も全てに重なりがあるようにする。 ・32ができていなかったら、33【ふき残しがない】もできていないということになる。 ・32ができていても33【ふき残しなく】ができていないときはある（ふき残しやすいポイントを確認）。
38	ふいたあとを歩く	・2回まで△、3回以上×
41	クロスを浮かさない	・クロスからヘッドを外すときにクロスも一緒に持ち上がってしまう状況を指しており、1回だけなので△
42	ごみが付いた面を内側に・・・	・クロスをたたんだときにゴミが落ちた →内側にたたまずにゴミが落ちた場合は×。内側にたたんでごみが落ちた場合は減点しない。
44	機材置場に戻す	・柄の長さを戻しても、戻さなくても○
48	正しく持つ	・柄は腕の内側でも外側でも○ ・面も片面のみを使う。

51	ちりとりに回収	<ul style="list-style-type: none"> ・この時点で取り残しがあれば△か× ・自在ほうきの動かし方 →半円でも平行でも、ほうきの半分がちりとりに入っていれば○ ・自在ほうき、ごみを落とすために何度もトントン →あまりにもひどければ「その他」へ。2、3回程度であれば○。 <p>※ゴミ回収時に手間取っている様子が見られた場合は「62その他」で減点。</p>
52	反時計回りで自己点検	<ul style="list-style-type: none"> ・机の脇、狭いところを通っても○
56	手順通り行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ダスターの最後の場面の八の字は、拭き残すことがよくないので、5回もしくは7回でOK。→7回であっても32、56は減点対象外。 ・「手順通り行っている」とは、作業手順（図解）に則っている場合
57	手際よく行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・作業動作が止まることを手際が悪いとみなす。 <p>※ゴミ回収時に手間取っている様子が見られた場合は「62その他」で減点。</p>
62	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目になくおかしいと判断されるものは、その他で対応する。 <p>例) ・ゴミの回収に手間取っている場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドを床に置く際に、ゴム面を上に向けない（床に着いている） ・ふき進んでいる時や、ごみ回収・点検時に道具や体が壁（想定）にぶつかった場合

【モップ】

評価事項		共通理解
	準備	・マット上に柄を置く→房糸を絞る ○
8	房糸を2～3に分けて内側にしぼる	・順番は決まっていない。
10	水がバケツの外出ない	・水滴が1滴でも垂れたらダメなのか、モップを絞った後、拭き取っていてもダメなのか？ →垂れたかのチェックは受験者が退場してから行うため、その時点で水滴があるのか濡れているかを確認する。拭き取るのは濡れたままにしているのだから○。ただ大量に濡らし、拭き取ったとしても拭き取りきれないようなものは程度により△か×を付ける。気付かず垂らしていても同様。
14	柄の先端がちょっとでも床から離れたら…	・程度によるが、離れていると明らかに目で判断できるものを減点対象とする。
15	柄を適切な長さに調節する	・肩から耳の間が「適切な長さ」。 ・受検者の動きが速すぎて判断できない場合は、拭いている動作を見て判断。 ・はじめ適切な長さでも作業中に閉まりが緩くて柄が縮んだら？ →気付いて速やかに調整し直したら○。気付かなかったら程度により△か×。調整してもその手際が良くなかったら△。
19	房糸を右手で押さえて拭く	・押さえている右手が壁に触れる →減点対象。
20	壁に房糸が付かない	・壁にかすっているのは○。 ・横木が当たるほど壁に付いているのは△か×（範囲により判断）。 ・房糸が3～4センチ程度壁から離れていたなら△。
22	柄が壁に付かない	・キャップ、体などが付いた場合 →△
24	房糸を自分の方に前に向けて進む	・壁際を拭くとき、自分の体の横において拭いているのはよいか（犬の散歩のような拭き方、モップを押していないような拭き方） →横木がしっかりと床についていないので減点対象。
31	脚に房糸が付かない	・脚にかすっているのは○。横木が当たるほど脚についているのは△か×（範囲により判断）。房糸が3～4センチ程度脚から離れていたなら△。 ・図解②のように机の周りを拭くときは、房糸が机の下に入っていればよい。 ・図解②から③に移るときには図にないため、机の左側は拭かなくてもよい。

33	机の下を押しぶきする	<p>・体の向きは、ふみ出す足のつま先が机の方を向いていない場合は減点。 * 柄の持ち方は、右手も左手も上から持つ。 * (写真参照) 柄の先端を親指で押さえながらふいている場合は△。 つま先の向きと持ち方のどちらか間違えていると△、両方間違えていると×。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>正しい持ち方</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>間違った持ち方</p> </div> </div> <p>・拭き残しがないようにするとどうしても房糸があたってしまう →程度による。審査員の中から見て、仕方がないと判断した場合は○。</p>
35	片手の親指で柄の先端をおさえる	<p>・作業手順(図解)の③④⑤で押しぶきをする際は異なる。(33番の通り)。</p>
36	両手の間隔	<p>・肩幅程度かどうかで判断する。 *以前の表記「30cm」は削除</p>
37	背筋を伸ばす	<p>・横拭きのときに多少前傾姿勢になるのはよい。前傾が大きいときは程度によって△か×。横にふくたびに上半身がお辞儀をするような動きをするのは△か×</p>
38	拭き方中央 ～	<p>・評価票にある項目がクリアできているのであれば○ (横拭きのやり方について、細かくは問わない)</p>
39 43	重ねぶき ふき残し	<p>・39ができていなかったら43もできていないということになる。 ・39ができていても43ができていないときはある(ふき残しやすいポイントを確認)。</p>
40	横木が地面にしっかりつく	<p>・房糸の動きに注目。房糸の一部が反対方向に向くようなら地面から浮いていると判断する。△か×かは割合で判断する(浮いている割合、浮いたまま拭いている範囲の割合)。</p>
41	横木が自分に対して常に縦になっている	<p>・「常に」と書いてあるので、ちょっとでも縦になっていない時点で0点(×)なのでは? →ちょっとでも縦になっていなかったら○ではないという解釈に。△か×かは割合で判断する。</p>
44	ふいた所をふまない	<p>・壁際で拭いたところを、横拭きで拭いた時に踏んだ場合は×</p>
45	向きを変えるごとに房糸を返す	<p>・⑤→⑥、⑥→⑦、⑦→⑧、⑧→⑨、⑨→⑩に移るだいたいの変わり目、計5回で房糸が返していれば○。厳密に⑥⑦⑧⑨⑩の始まりでなくてもよい。⑦は途中でもう1回返しても良い。</p>
49	敷居は房糸を手でおさえて拭く	<p>・敷居：p13図解であるように、幅木と幅木の間よりも少し手前、入口側(⑩)とする。</p>
53	片付け	<p>・柄の先端は? →53の項目には「柄の先端を地面につけて」という記述がないので、地面につけなくても○ ・柄は? →縮めても縮めなくても○</p>

56	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・房糸のしぼり方があまく、房糸か水滴が垂れている。 ・評価項目にない場面での幅木への接触、壁の突き抜け。 ・四隅のふき方で、横木が壁についていると想定される場合。 ・清掃用具を落とす（「またぐ」はギリギリ OK）。
----	-----	--

*ポリバケツの水は2～3人終了したら交換できるようにストックのバケツを用意する。

*作業手順(図解)の⑥⑧⑨の最初の直線部分は、モップの移動を表す線なので、房糸でふかなくてよい。また房糸が床についた状態で移動してもよい。

*入室(評価票16番)の後、最初から右膝をついてしゃがんで隅まで拭いても、たて拭きを少ししてから右膝をついてしゃがんで隅を拭いてもどちらでもよい。

*横ぶきのとき、作業手順のようにカクカクと拭かなくても、きちんと拭けていればよい。

【掃除機】

評価事項		共通理解
9	起動確認	<p>ノズルの向きは不問だが、吸い込み口を上向きにして置くので、そのまま手を当てるのが自然な動作。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起動確認の際にノズルに手を当てる動作は立位でも問題ないか？ ⇒項目にはないが、用具の準備の動作であり、周囲への安全配慮の面でも、模範DVD通りとするとしゃがんで行うのが望ましい。もし、動作中に想定の壁にぶつけたと考えられる場合はチェック。
13	ホースのエルボー部分と延長管を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除機を移動するついでに、片手で掃除機を掛けた時はどうなるのか。 → 減点する。
15	ごみを踏まず、掛けたところを進んでいる	<p>※立ち位置や進み方で、掛けたところを把握しながら進んでいるかを見るためのチェック項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛けた際にごみが引っかかり、取り切れずに踏みこんでしまったような場合はチェックをしない。ただし、同じ所を二度三度と掛ける中で同じように踏み込んで踏む場合は注意確認不足ということでチェック。 ・掛け進んでいないエリアに入ってごみを踏むのは当然減点。 ・撒かれたごみの位置の関係で踏んではいなくとも、明らかにまだ掛け終わっていないエリアに足を踏み入れている場合はチェックして減点。
20	掛け残しが無い	<p>※ウオンドの幅を少しずつ重ねながら隙間無く掛けているかという、用具の扱い方・動かし方を見るチェック項目。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け残しがなくてもごみが張り付いたり余所から飛んできたりして残ってしまう状況についてはチェックをしない(点検の前までの段階で気が付き対応・処理できれば問題は無い)。 ・カーペットを固定するためのテープの部分も含めて全体とする。 <p>※カーペットと枠の間にテープの部分が有り、少し空きができてしまうため、出ている面だけという解釈では不十分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛けている途中のごみの取り残しは、手で取ったり手順を変えて掃除機で取ったりしてよい。減点しない。 ・掛け残しの回数(面積ではなく)で減点。回数により△×

	15・20に関連して	カーペットの毛足に引っかかったり、掛けてはいてもノズルがはじいて飛んできたりする場合もあり、踏み込んだ足で踏んでしまう状況が想定される。その場合は故意でも不注意でもなく、そういったものを出さないように気をつけながら進んでいく中であっては1, 2度そうしたところがあってもチェックはしない(おそらく動きの中で気が付き、その後の動作でゴミも取るので様子を見ていて判断する。一度掛けたところだからといって足下の確認もせず進んでいって踏むような場合は減点)。
20 33	掛け残しがない、 入口から反時計回りに 自己点検をする	・掃除機でどうしても取れないごみはどのようにすれば良いか。 → その時に手で拾う。掃除機をかけ終わって、点検時に拾うのは減点。
22	枠にぶつけない	・掃除機の一部が <u>想定される壁に当たったり、突き抜けたりした場合</u> 、この項目で減点する。
26	コードを踏んだり またいだりしない	・掃除機を移動させる時、 <u>掃除機本体</u> がコードを踏んだりまたいだりするのはいいか。→ 踏むのは減点。またぐのはセーフ。 ・自分が掃除機本体のコードをまたぐのは減点
28	移動時、本体のハンド ルを持って	・掛け途中の動きによる本体の回転やズレは減点しない。
32	32 プラグを持って	※用具の扱い方に関するチェック項目 掃除機を部屋から出して置いた後、 <u>プラグを抜かずに自己点検に入り、戻ってきてからプラグを抜いた場合は「手順～」の方で減点。ただし、抜く際にプラグの根元でなくコードの所を持って抜いた場合は両方で減点する。</u>
37 38	コードの巻き取り コードのスムーズ手繰り	・コードをたぐっているときに、途中で8の字になってしまったものがあっても直さずに、そのまま巻いてしまっている場合は減点。 ・同じ大きさの輪であれば、多少戸惑ったり、ねじれてやり直したりしても減点しない。
45 そ の 他	延長コードをまたぐ 出入り時の札について	・受検者が延長コードをまたぐのはいいか。 → またいでも減点にならない。 ・フロアで清掃しているとき、コードがフロア外で絡まったなど、清掃に支障が出て、フロアの外に行かなければならなくなった場合、出入口での札はいるか。→ 札はしなくてよい。

*審査員の準備として、

ドラムコード …入口マット右。入口幅木の左端より外側に置く。

ウォンドのつなぎ目…テープで固定しておく。←持ち込みの場合は必要に応じて

コードの輪 …一人一人の検定が始まる前にきれいに巻き直す。